

# 須崎港津波漂流物対策施設の検討

金正富雄\*・田代 徹\*\*・北原政宏\*\*\*

\* (財) 沿岸技術研究センター 調査部 調査役

\*\* (財) 沿岸技術研究センター 調査部 主任研究員

\*\*\* 前 国土交通省 四国地方整備局 高知港湾・空港整備事務所長

## 概要

南海地震が起きると、須崎市では30分余りで大津波が来襲すると予測されている。そのため、ハザードマップや避難路の整備など、人的被害の軽減に努めている。一方で、須崎港には木材工業団地があり、原木が野積みされている。過去の津波では、多量の木材が流出して、建造物の破壊や人的被害を起こしただけでなく、街や港に滞留した流木が復旧活動の支障にもなった。そこで、減災施設として主に津波による原木の漂流を防ぐ施設を実証実験として設置することとなり、「津波漂流物対策施設設計ガイドライン(案)」に沿って検討を行った。

キーワード: 津波漂流物対策施設, 漂流物, 減災施設, 津波計算, 漂流計算



図-1 須崎港鳥瞰図 (イメージパース)

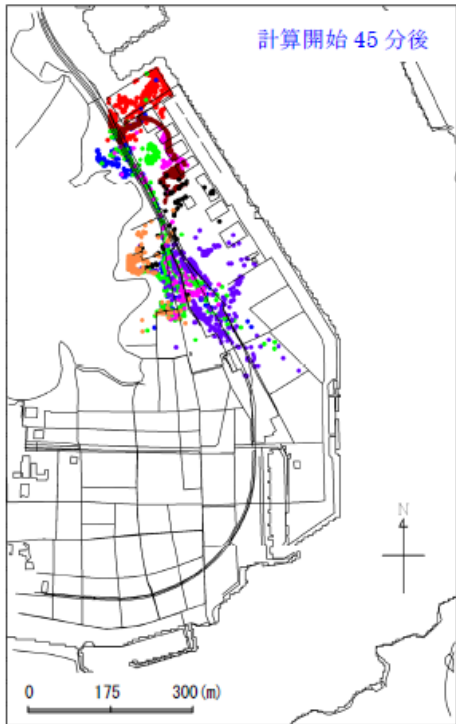


図-2 津波第1波来襲直後の漂流計算結果 (津波バリアなし)

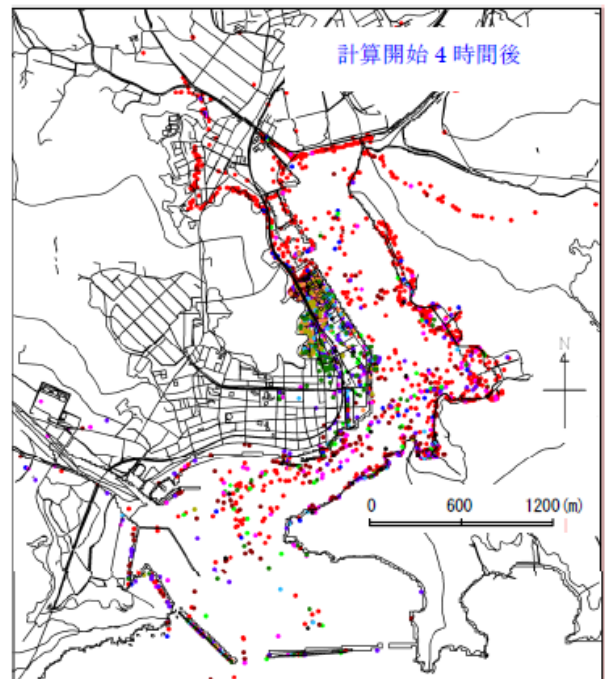


図-3 地震発生4時間後の漂流計算結果 (津波バリア無し)

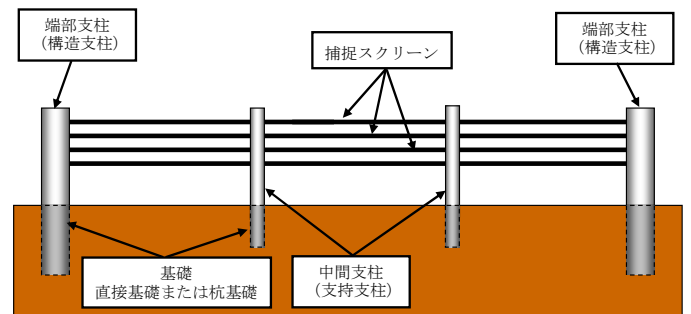


図-4 津波漂流物対策施設の基本構造